

# もう逃げない

N・M 会社員(27歳)

私は夢に向かって一生懸命働

き、何もかもが上手く進み、彼女とも婚約する約束でした。そう、あの事件を起す前までは……

事件の前日、昼夜勤務を

4回繰り返して自分自身も分かるほど疲労が溜まっていた

ました。無事に夜の仕事も終え、気付いたら日も変わっていたので、早くベッド

の上で寝ようと家に帰ることにしました。仕事を終えた安心からか、途中、強い睡

魔に襲われたため、私はこのまま運転したらまずいと

車を路肩に止め、取り敢えず社内

で寝ることにしました。途中気が付いたら外が

明るくなっていました。私は早くベッドの上で寝たい

という気持ちや、ちょっと寝たから大丈夫だという気

持ちに駆られ、運転しまし

た。しばらくすると、また強い睡魔に襲われましたが、

今度は車を止めることなく、逆に窓を全開にして、CDを聴いて、自分なりに睡魔

と戦っていました。しかし、気が付いた時には大きな衝

撃音とともに、目が覚め、何がだか分からず、アクセ

ルを踏んだところ、柔らかな何かを乗り越えてしま

いました。そこで恐怖心を覚え、もしかすると人を轢

たのではないかと思い、頭の中がパニック状態になり、

車を止めることなく、その場から逃げてしまいました。

しばらくすると、警察の方から「今日の何時に事故を

起こしませんでしたか。人が倒れているという通報が

あり、目撃者が車のナンバープレートをみていたので

電話をさせて頂きました」と言われ、私はそこで初めて人をはねてしまったのだと実感しました。

私はすぐさま「被害者の方は大丈夫ですか」と聞いたところ、「今どちらに居ますか。その場を離れず待っていて下さい」と言われま

した。しばらくすると、警察官の方が到着し、「とりあえずパトカーの中まで来て下さい」と言われ、パトカーに入りました。そして、警察官

から「被害者の方は病院に搬送されたのですが、亡くなられました」と告げられ、私は頭の中が真っ白になり、

ずっと車の中で泣きました。私は人としてやってはいけないことを、取り返しのつかないことをしてしまい、言葉にならない気持ちでいっぱいでした。

私は現在懲役3年8月の実刑判決を受け、市原刑務所で日々反省し、一日一日を大切に過ごしております。受刑生活を送る中で、私は

何度も後悔しています。今さらですが、過去には戻れません。謝っても許されることではありませんが、心の底から大変申し訳ない気持ちになりました。私はもう逃げません。私はこの現実を受け止め、嫌なことから逃げずに一生を掛けて償いをしていきたいと強く思いました。

私はまだ直接、被害者ご遺族に謝罪をしております。しかし、私が書いた謝罪文とともに家族、上司が、弁護士を通じて私の代わりに謝罪をしてくれました。被害者ご遺族は保険金だけでいいと仰り、私が書いた謝罪文は仏壇の上に一緒に供えて置きますと約束してくれました。話し合いの中で、私が救護しなかったことを物凄く怒っていました。

しかし、私よりも会社側に對しての怒りの方がもっと凄かったと家族を通じて聞かされました。この事件によって会社の評判が悪くな

り、家族は近所の方々から冷たい視線で見られ、日々生活をしております。

私は自動車という乗り物のルールを守らず、凶器に変えてしまいました。私はこのような悲惨な出来事を二度と犯さない為に市原刑務所のルールをちゃんと守り、そして私が犯した罪と

正面に向き合い、被害者の方への償いをしていきます。どんなに謝罪してもご遺族の悲しみや怒りが消えることはないでしょう。それでも私に出来る限りの償いを一生続けないといけません。

償いに答えなどありませんが、償いとは何かを一生懸命考えたいと思います。

「贖いの日々」第53集より

抜粋

転載・二次使用を禁止します。